

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] サギソウの開花調節技術

[要約] 冷蔵保存したサギソウ球根を3月下旬から7月下旬に定植することで、8月上旬から11月上旬まで開花させることができる。

[キーワード] サギソウ、開花調節、冷蔵球根、定植時期

[担当] 福井園試・花き研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009 電子メール [enshi@pref.fukui.lg.jp](mailto:enshi@pref.fukui.lg.jp)

[分類] 普及

---

[背景・ねらい]

越前市では地域おこしの資源としてサギソウをとらえ、イベント等の展示用栽培や苗の販売等に取り組んでいる。そこで、サギソウの開花調節技術を開発するため、冷蔵球根の定植時期と開花時期との関係を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

1. サギソウの到花日数に及ぼす日長時間の影響は小さい(表1)。
2. サギソウは冷蔵球根を定植してから約100日~140日程度で開花する(表1、2)。
3. サギソウの草丈は40cm前後、1株当りの花数は3個であり、定植時期が異なっても生育に影響しない(表3、図)。
4. サギソウ1株について一番花の開花から最終花の終花までの日数は、2週間程度である(データ省略)。
5. サギソウの栽培暦は、図2に示したとおり、冷蔵球根を3月下旬から7月下旬に定植することにより、8月上旬から11月上旬まで開花させることができる。12月に枯れ上がったサギソウを掘り上げ、地中のストロンの先端に生じた新球を採取・冷蔵保存し、翌年の栽培に用いる。

[技術の活用面・留意点]

1. 採取したサギソウの球根は、球根が乾かないように軽く水で湿らしたミズゴケで覆い、ビニール袋の中に入れて2で冷蔵保存する。
2. 用土は小粒の鹿沼土と赤玉土を1:1の割合で混合する。芽を折らないように上向きで定植し、十分水を吸わせて絞ったミズゴケで鉢の表面を覆う。夏季は寒冷紗等で遮光し、かん水は栽培期間中、土の表面が乾いたとき十分に行う。施肥は無肥料でも十分生育する。
3. 1g程度の球根を用いた結果である。

[普及計画]

普及目標: 栽培農家 90戸

普及対象: 地域振興や観光農業等を志向する栽培農家

[ 具体的データ ]

表1 サギソウ球根の定植時期、日長条件が到花日数に及ぼす影響(2004年)

	定植日 (月/日)					
	1/13	2/18	3/23	4/22	6/24	7/21
日長12時間	137日	135日	-	113日	99日	111日
日長8時間	138	136	137	115	99	118

注) 1. 温度; 20、照度; 3,100~3,700lux  
2. NK式人工気象器

表2 サギソウ球根の定植時期が到花日数に及ぼす影響(2005年)

試験場所	定植日 (月/日)	到花日数 (日)	開花日 (月/日)
園試	4/27	112	8/17
	5/23	105	9/5
	6/24	98	9/30
	7/22	105	11/4
越前市	3/20	148	8/15
	4/25	118	8/21
	5/23	108	9/8
	6/23	101	10/2
	7/23	102	11/2

注) 1. 園試、現地とも径18cmのポットに植付け、かん水は底面給水。  
2. 園試ではハウス内(遮光率約70%)で栽培。  
3. 越前市では半日陰になる自然条件で栽培。  
4. 用土: 園試; 鹿沼土: 赤玉土は5:5、  
越前市; 鹿沼土: 赤玉土は3:7。  
5. 施肥条件: 園試; 無肥料、現地; マグアンプ少量。

表3 サギソウ球根の定植時期が生育に及ぼす影響(園試)

定植日 (月/日)	草丈 (cm)	花数 (個/株)
4/27	35.2	3.1
5/23	38.6	3.0
6/24	41.6	2.9
7/22	41.9	3.2

注) 1. 径18cmのポット、かん水は底面給水  
2. 遮光率約70%のハウス内で栽培  
3. 用土は鹿沼土: 赤玉土が5:5、  
4. 施肥条件は無肥料



図1 サギソウの開花状況

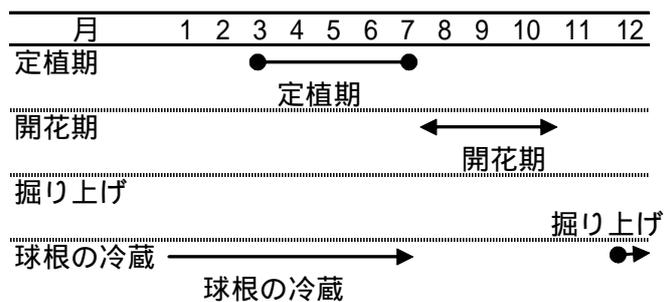


図2 サギソウの栽培暦

[ その他 ]

研究課題名: 地域に自生するラン類等希少植物の低コスト生産技術の開発

研究期間: 2003~2005年度

研究担当者: 栗波哲、滝修三、岩本祐佳、数馬俊晴